

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 7 月

○ 概要

(1) 平成 29 年 7 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,240 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+2.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,183 円（伸び率+2.2%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,549 億円（伸び率+2.5%）、薬剤料が 4,681 億円（伸び率+2.0%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 787 億円（伸び率+13.8%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,540 円（伸び率+1.1%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.73 種類（伸び率▲1.5%）、24.4 日（伸び率+3.3%）、85 円（伸び率▲0.7%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,833 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+36 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 835 億円（伸び幅+5 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 11 中枢神経系用薬の 40 億円（総額 679 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,833 億円 (+36 億円)	21 循環器官用薬 (835 億円)	11 中枢神経系用薬 (679 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (565 億円)
0 歳以上 5 歳未満	30.0 億円 (▲5.8 億円)	44 アレルギー用薬 (12.6 億円)	61 抗生物質製剤 (7.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	71.9 億円 (▲5.5 億円)	44 アレルギー用薬 (27.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (17.1 億円)	61 抗生物質製剤 (4.3 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,328 億円 (▲0 億円)	11 中枢神経系用薬 (294 億円)	21 循環器官用薬 (253 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (209 億円)
65 歳以上 75 歳未満	950 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (166 億円)	11 中枢神経系用薬 (115 億円)
75 歳以上	1,453 億円 (+60 億円)	21 循環器官用薬 (331 億円)	11 中枢神経系用薬 (252 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (185 億円)

(4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,183 円（伸び率+2.2%）で、最も高かったのは福井県（11,002 円（伸び率+1.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,967 円（伸び率+0.8%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福岡県（伸び率+4.5%）、最も低かったのは山梨県（伸び率▲0.5%）であった。（→P.27~28）

【後発医薬品薬剤料】 787 億円（伸び率：+13.8%、伸び幅：+96 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	68.6%	+2.8%
薬剤料ベース	16.8%	+1.8%
後発品調剤率	67.4%	+1.6%
（参考）数量ベース（旧指標）	46.4%	+2.4%

注）〔後発医薬品の数量〕 / 〔〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕〕で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+13.8%	+22.9% (45 歳以上 50 歳未満)	+9.2% (60 歳以上 65 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.8%	17.6% (65 歳以上 70 歳未満)	10.0% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	698 億円 (+86 億円)	21 循環器官用薬 (205 億円)	23 消化器官用薬 (110 億円)	11 中枢神経系用薬 (82 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.0 億円 (+0.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (1.9 億円)	61 抗生物質製剤 (1.2 億円)
5 歳以上 15 歳未満	10.8 億円 (+1.1 億円)	44 アレルギー用薬 (5.8 億円)	61 抗生物質製剤 (2.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	232 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (58 億円)	11 中枢神経系用薬 (36 億円)	44 アレルギー用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	176 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (58 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	33 血液・体液用薬 (19 億円)
75 歳以上	272 億円 (+33 億円)	21 循環器官用薬 (81 億円)	23 消化器官用薬 (51 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,158 円	1,538 円（岩手県）	962 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+14.0%	+18.2%（徳島県）	+9.6%（奈良県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	68.6%	79.5%（沖縄県）	59.5%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	16.8%	21.3%（鹿児島県）	13.5%（徳島県）
後発医薬品調剤率	67.4%	78.5%（沖縄県）	61.6%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	46.4%	56.9%（沖縄県）	40.7%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成29年7月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。